

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	第6期第6回河内長野市市民公益活動支援・協働促進懇談会
2 開催日時	平成27年7月15日(水) 午前10時から
3 開催場所	市民公益活動支援センター「るーぷらざ」
4 会議の概要	① 市民公益活動支援センターの評価について ② その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 市民協働課 (内線 776)
8 その他	

\* 同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第6期第6回河内長野市民公益活動支援・協働促進懇談会 会議録

日 時：平成27年7月15日（水） 10:00～12:00

会 場：河内長野市役所3階 301会議室

出席委員：久、湯川、大谷、佐川、下川、杉岡、曾和、永田、野田、山崎

事務局：市民協働課：松浦、古谷、杉本、

指定管理者：特定非営利活動法人かわちながの市民公益活動推進委員会 西村理事長

1. 開会

2. 案件

① 市民公益活動支援センターの評価について

3. 閉会

① 市民公益活動支援センターの評価について

会 長：今日は現地にお越しいただいて、るーぷらぎの評価をさせていただくということで、まずは西村さんの方からお話ししたい点があればお願いします。

理事長：平成26年度は、全体的にどのような内容を目指したかということ、平成25年度に長年活躍してもらっていた者が退職したので、それを違う形でカバーするにはどうすれば良いかということで、組織で対応していくことにしました。

具体的には、相談分野では、データの整理と、経験がさほど無いスタッフでも対応できるような相談のスタイルということで、相談内容を一般的な活動相談とマッチング相談とに区別しました。その中でも、マッチングについては、福祉施設などにアンケート調査を行いまして、ボランティアが欲しいというニーズの把握と、ボランティアを提供できるという団体からのアンケートも取りました。それらのマッチングをして、それなりの成果が出ました。

また、昨年秋頃から、市とも協力しまして、マッチングのシステムを拡大しました。ベースには、河内長野ガス、市、るーぷらぎ、社会福祉協議会、長野小学校区のまちづくり協議会で防災に関するネットワークづくりという動きが進んで、るーぷらぎが窓口になって、河内長野ガスのセミナーハウスを活用させていただくという話をきっかけに、企業の社会貢献活動も把握できればということで、アンケートを取りました。場所を提供できるとか、物品の提供ができるという企業さんが出てきておりますので、そういった所と市民活動団体とのマッチングもぼちぼち進めていこうと思っています。

あとは、一つのテーマとして、防災活動を考えています。南海トラフが必ず起こるという話もありますので、各市民団体と共に何ができるのかというところを継

続的に勉強していきたいと思っています。昨年秋には、南河内規模で連携して勉強会を開催しました。紅谷先生を招いて、大阪大谷大学、富田林、狭山、河内長野で講演ができました。南河内の連携の中で、大阪狭山市では既に防災に関する市民ネットワークができているという話を聞いて、河内長野でもネットワークのきっかけづくりができてきたかなあと思いました。る一ぷらざで防災の新聞を年2回発行したいと予定していたんですが、準備号を1回だけ発行できました。これから、1号、2号と発行できるよう、ネタを絞り込んで作っているところでございます。

会 長：ありがとうございました。それでは委員の皆さまからご質問をお願いします。

理事長：資料1の交流スペースの9月の人数が間違っています。(㊦3人→㊦121人)

会 長：昨年度の評価ですので、昨年度に新しいグループさんが仲間に入ってくれたとか、こういう団体が新しいNPOになったとか、いわゆる新陳代謝みたいな話がありますか。

理事長：森林ボランティアのトモロスさんは、2階の事務ブースを使っているのので、関係はあったんですが、る一ぷらざの委員会に入ってもらって、今年は交流部会副部長もしてもらって、積極的に担ってくださるということです。

会 長：私に関わっている兵庫県川西のセンターの現状を言うと、30代、40代の女性陣が最近ネットワークに入ってくれるようになって、非常に元気なんです。たぶん、長野にもそういう方々が沢山おられるだろうなと思うので、その辺りに触手を伸ばしていただけたら、また違う雰囲気になるんじゃないのかなと思っています。川西では、スタッフも昨年から若い方を採用させてもらって、彼女の企画力で講座の雰囲気も変わってきたのかなというような話もしていますので、そういうところがもっとあったら良いかなと思います。

理事長：そういう意味では、佐川さんの子どもさんが中学校に入ったということで、佐川さんが常勤スタッフに入ってくれました。今、子育てがある程度終わって、外にも目を向けようかという方が、スタッフを含めて入っていただいています。非常に良いことかなと思っています。

委 員：防災1号を発行されたという機関紙は、どういう機関紙ですか。

理事長：る一ぷらざ発行のガイドブックに掲載していただいている団体中心に配布をしただけで、まだ大きくは配布できていません。本格的に創刊号を発行した時は、広く配布しようと思っています。

会 長：評価シートは、○か◎なので内容的には問題ないと思うんですが、委託者評価と行政評価の違うところが何点かありまして、人材育成のところと相談業務のところ、委託者評価は◎で、行政評価は○です。その中で相談業務の補助金のところで、もっともつとる一ぷらざに相談に行っていたら良いのになと行政からのコメントであるのですが、私も審査員をさせていただいて、もう少し一ぷらざに相談に行っていた方がプレゼンの時に良かったんじゃないかなと思いました。ちょうど行政評価と私の印象が重なっていましたので、来年度は直接プレゼンに臨むんじゃなくて、市はなかなかアドバイスできませんので、一ぷらざで色々アドバイスしてプレゼンできたら良いかなと思います。

理事長：実際に相談に当たる者が経験不足であることを、ひょっとしたら感じられたのかは分からないですけど、こちらの方でも相談のスキルを高める努力はしないといけないと思っています。組織的に対応しようということについては前進していると思っているけれど、スキル面ではまだまだこれからしないといけないんだろうなと思います。

会 長：おそらく講座を打つタイミングみたいなものもあるのかなと思います。例えばプレゼンのちょっと前にプレゼンの講座をすとか、企画書を書くちょっと前に企画書の講座をすとか。昔、湯川さんのところに頼まれて、審査員側の講座をさせてもらったんですが、審査員はこういうところをチェックしますよとか、こういうところをポイントに審査されていますよというような話をする機会をいただきました。普段は、当日にやりとりすることが多いんですけど、事前にポイントをお伝えするだけで、かなりポイントを絞れたプレゼンをしていただけました。

委 員：評価シートで、実際の実績としては概ね実施したとありますが、概ね実施で◎というのは、どういうふうな取り方をしたら良いのですか。通常概ねだったら、○というようにしか捉えられないんですが。

理事長：うちの方で◎の評価をした箇所は、全部の項目に渡って概ね実施したという意味ではなくて、何項目かあって、概ね実施したという項目もあるけれど、それ以外のところで新しいことにも取り組みましたよ、という評価として◎にしました。

会 長：行政の評価の書きぶりの方がいいですね。当初の事業計画どおり実施の方が。すでに事業計画でお約束されている部分もありますし、それは達成できましたよ、更にこういう部分をやりましたとか、あるいは計画以上に効果が出たとかいう書き方をすればいいと思います。

委 員：評価シート3ページに個人情報保護の情報公開という項目があります。この前、年金情報の流出が問題になりましたけど、実際の担当者がきっちり徹底していなかったということが原因ですよね。ここは他の項目よりも、もっと徹底しておか

ないといけないところだと思います。

会 長：その辺りは私もついでお聞きしたいというか、職員研修の方はどうでしょう。

理事長：個別の職員研修は、日常業務の中でしているということで対応していた部分があります。それについては反省をしまして、今年に入って、つい先日接遇の研修をしたばかりです。確かにご指摘のとおり、もうちょっと徹底して、具体的にどう管理するかというところは細かく研修していくように思っています。評価では〇にしていますけれど、ちょっと曖昧と言われれば、確かにそのとおりだなと思っています。特に、データ管理に関しては、パソコン会社の方に管理マニュアルを作って欲しいとは言っているんですけど、今年はもう少し厳密な内容で研修したいなと思います。

会 長：今回の話でいうと、例えば個人情報が入っているようなハードディスクは、常時ネットで繋がるようなところには接続しないとか、そう細かな部分の配慮が必要ですね。職員研修として別途やる必要は無いと思います。NPOでは当然、皆共通してやっていかないといけないので、全体の講座をしていただいて、その中で勉強していただく方が、お互い効率的かなと思います。

理事長：是非、今年はやりたいと思います。

委 員：4ページの緊急時の適切な対応の取り組みとありますが、災害時のマニュアルは存在しますか。

理事長：緊急時のマニュアルは作っていません。今のところ、連絡網は作っていますが、こういう時はこうするとかいうのはできていませんので、連絡網だけです。

委 員：できたらマニュアルがある方がいいですね。

委 員：活動報告書の冊子の76ページに、かわら版への記事掲載についてありますが、河内かわら版という市商連発行の情報紙は、2ヶ月に1回、各新聞に折り込みいで配布をしています。ここは、人気のページなので、上手く活用して、る一ぷらざの活動とか、まちづくり協議会の具体的な活動を紹介していただけるよう、考えていただければ良いかなと思います。まちづくり協議会の情報紙は、それぞれ発行されていますが、発行はしても、その地域の各戸別に配布するというのは、非常に難しいです。それを、自動的に新聞に折り込んでくれるわけですから、色々な情報を市民の皆さんに広く知ってもらうことができると思います。かわら版を発行している事務局も、次々と記事があると助かるので、上手く活用していただければ良いかなと思います。

委員：評価シートの2ページ、人材育成事業のところの4番目の項目に、アドバイザー養成講座の開催というのがありますよね。それに私も参加したんですが、この講座を受ける事で、その後どう変貌していくのかが、私には見えにくかったので、この人材育成事業のところは◎になっていますが、その辺はどうですか。

理事長：アドバイザー養成講座については、前々から指摘はされておりました、どういう目的の講座なのか、受けた後は何が出来るのか、みたいな話はあるんですが、はっきり言いまして、2回のアドバイザー講座を受けたからといって、いきなりアドバイザーになるのは難しいと思っています。そこで、名称を含めて、講座自身を変更しようかと現在考えております。アドバイザーと言うと、どうしても的確なアドバイスを与えるという形になりますので、サポーター養成講座という名称にして、少しお手伝いをする、協力する、というような講座にしようかなと検討中です。ご指摘については、前から言われていたのに、手を打ててこなかったというのが現状ですね。

◎にしたのは、グループ運営講座で防災をテーマに実施しまして、先生から防災活動と言えども地域団体中心になるので、ボランティア団体として防災活動をやっているのは、非常に珍しいと褒められたので、◎にしたんだと思います。全体的な人材育成事業としての評価では、決して◎とは言えないなど、一応自己認識はしております。

委員：参加する側も、2回の講座でアドバイザーというポジションになることはないと思っておりますが、来るってことは何かお役に立ちたいという気持ちがあるからだと思うんです。その参加者の気持ちを繋げるために、名称を変えるのも一つの方法ですが、最初に講座の趣旨説明があれば、出席している者もどこに向かって自分たちがやるのかが分かりやすいと思います。資料4の相談件数でも、例えば、「団体運営・行事企画。団体立ち上げ」相談が32件、「ボランティア活動をしたい」という相談が30件あります。これらは全部、ボランティアをして貢献したいという前向きな気持ちの人の件数で、これらの件数が多いです。講座を開くにあたって、流れが分かっていると、新しい方や若い世代の方も、もっと積極的に取り組んでもらえるのかなあ、とこの人数を見て私は感じました。

理事長：ちょっと昔からの状況を説明しますと、アドバイザー養成講座を2回受けると、キックスにあった情報提供コーナーに座って経験してもらっていたんです。しかし、キックスの管理運営が変わりまして、指定管理になって、今まで情報提供コーナーを置いてもらっていたところが、指定管理を受けた文化財団の案内所になってしまったんです。はっきり言って、追い出されたという形になりまして、るーぶらぎ以外で相談コーナー的な場所が無くなってしまい、一度ここに座って経験してみませんか、という提案ができなくなったという裏事情があるんです。今のところ、良い手立てが考えられていないんですが、せっかく前向きに参加していただいた方に、どういうふうな経験をしてもらうのか、もうちょっと検討して、

何か手立てを考えようと思っております。

会 長：今のお話を聞きまして気になり始めたんですけど、人材育成事業のところで1番から6番までの項目がありますよね。1番2番はいわゆる入門、これから始めようじゃないかという方が対象ですよね。3番は、団体を担っていく中で、色々悩んでいる事がある。そういう事を解決するために、運営のスキルアップを目指す講座ですね。4番はその次のステップだと、私は認識しています。つまり、グループの中ではきちんと運営できているけれど、他団体との連携とか、あるいは他団体へサポートに行ける方は、まだまだ少ない。これは、河内長野のある意味弱みだと思うんですよ。そういった方をどんどん養成していくということであれば、単なるサポーターではないと思うんですね。ですから、一番重要なのは、私は河内長野の今の市民活動の現状を見た時に、どこをテコ入れしないといけないのかという中で、講座の内容は決まってくると思います。

理事長：おっしゃっているとおりなんですけど、具体的な絵が今は書けていないので。

会 長：もっと分かりやすく言えば、リーダーはたくさんおられると思うんです。ところが、コーディネートとかファシリテート能力を持った方々がまだまだ少ない。リーダーではなく、コーディネーターとかファシリテーターという能力で運営する部分を増やしていただくと、おのずと団体同士の繋がりも出てくるはずなんです。あるいは、新しい方々が入ってくださる可能性も高まってくると思うんですね。ストレートに言うと、自分たちが閉じれば閉じるほど、新しい人も入りにくくなるので、リーダーがそれに気づいていただいて、自分たちの活動の運営の仕方を少し変えていただくきっかけになれば、必ずしもアドバイザーが仲を繋いであげましょうというスタンスではない活躍の仕方があるんじゃないのかなと思います。

理事長：そのとおりだと思いますが、なかなかそれを伝えるのが出来なくて、参加された方は、どうしても活動の場はどこにあるねんみたいな形になってしまっています。

会 長：それは結局、企画の時に講座目的を明確にして、案内チラシの中にもきちんと明確にしておくことだと思います。昔、大阪府がやっていた地域アドバイザー制度も同じ話で、結局、時間に余裕が出てきたので、アドバイザー制度を受けたらすぐにアドバイザーになれるという誤解で、たくさんの方々が修了書ももらいました。ところが、地域活動をやったことの無い人が、修了しただけでアドバイザーになれる訳がないという現実に直面をして、大阪府に、修了したのに仕事が無いやんか、みたいな話になってしまったんですよ。入口部分で、きちんと誤解を解いておかないといけないということです。

理事長：検討します。なかなか難しいですね。

会 長：さっきのキックスの話、私は気になりまして、情報提供コーナーが無くなったということは、キックスとの連携が薄くなってきたということですか。

理事長：そうでも無いんですけどね。去年は、キックスの一部をうちが借りていたことについて、話し合いを持ちました。

会 長：なぜ気になるかと言いますと、この前の懇談会で、る一ぷらざの開館時間について議論させてもらっていた時に、私は設立当初からお付き合いさせてもらっていますから、る一ぷらざの意味合いやキックスとの関係が、理解できているんですけど、この懇談会の中でも、初めて聞いたというお話も出てきましたし、る一ぷらざはキックスを意識しながら立ち上がっているはずなので、それをキックスの指定管理の人にもきちんと認識していただかないと、る一ぷらざが浮いてしまうと思うんですよね。キックスと同じことはしないということで、る一ぷらざは設立されていますし、当然認知度であったり、あるいは立地についても、ここはキックスよりも更に奥まっていますから、キックスともっと連携させてもらわないと、ここの機能も半減しちゃうと思うんですよね。

理事長：仲が悪くなった訳では、無いんですけどね。

会 長：そうではなくて、キックスの指定管理者にも、ここの意味合いを、きちんとご理解いただきたい。これは市役所の責任でもあるかもしれないですけども、る一ぷらざとキックスは「一体」ということをご認識いただいて、指定管理を受けていただく必要があったのかなというように思います。

理事長：キックスと市の文化スポーツ振興課とも話し合いを持って、生涯学習活動と市民公益活動との協力関係をもう少し進めたいという話はしているんですけど、もっと具体的に話し合いを進めないといけないと思っています。先ほど先生がおっしゃっていただいたようなところは、市の方にもお願いしないといけないですね。

事務局：ひとつ補足します。縁が切れたんじゃなく、相談があれば、る一ぷらざの方に来てくださいという看板を出しています。要するに、歩いて2分で来れますので、看板を置いて誘導する形です。先ほど、追い出されたって表現を理事長がされたんですけど、私は追い出されたというイメージは無いんですよ。キックスの情報提供コーナーには、毎週何時間座っていて、相談に来られる人がどれぐらいいらっしゃったかということもあります。だったら、こちらに誘導して、る一ぷらざで相談してもらった方が良いんじゃないかなという思いがあります。だから、キックスとの関係性は、そんなに大きな課題とは思ってないんです。

理事長：実際、フェスティバルの掲示が出来なくなったり、従来よりはちょっと連携が悪くなっているのは事実です。時間をかけて、指定管理をされているところにも理



解をしてもらおうという努力はするつもりでいます。

会 長：では、ヒアリングは以上とさせていただいて、これから懇談会としての評価についてお話しさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

会 長：それでは、いつもコメント的な形で評価をさせていただいているので、色々コメントなどを賜ればと思います。全体的には一定以上のことをやっていただいているので、概ね良好かなということでしょうか。今後、更にこういうところを頑張ってくださいということがあればご意見をお願いします。

委 員：評価とは別ですが、今、アドバイザー講座を受けられた方がキックスに座っていただいていたというお話があったんですが、お行儀が悪くて、大変評判が悪かったんです。色んな方がお見えになって、そこで飲食をするというのは、あまりよろしくないと思うんです。るーぷらぎをPRするために、相談件数を増やすために座っているというよりは、暇つぶしでやっているような方もいらっしゃいました。今は看板だけですが、キックスの受付の方はるーぷらぎを案内されています。だから、その方が良かったかなと思っています。  
評価でも概ねと書かれていますが、やはりそれはきっちりとやりました、自信を持って書いていただいて、評価を受けていただきたいなど、表現の仕方が残念だったなと思います。

会 長：ちょっと言い方を変えれば、ボランティアスタッフであったとしても、指定管理者の一員なので、その辺りの徹底した教育をやってくださいということですね。

副会長：プレゼンの前にはプレゼン講座をするという話の中で、活動報告書を見させていただくと、参加者が5人とか6人とかで、すごい少なくもったいないなと思いました。あと、プレゼンに出る団体さんが、普段相談に来られた時は、そういうスキルを持ったスタッフがいないと、西村さんがおっしゃっていたかなと思うんですが、河内長野では、奥河内の動きがあったり、若い人たちがまちづくりに参加しようとしている動きがある中で、そういう人たちは、そういうスキルに長けていると思うんです。なので、スタッフだけで完結しようとするのではなく、自分たちでは補えないスキルも、そういう人を巻き込んで行くという方法もあると思います。その1回きりの講座には参加できなかったり、もうちょっと具体的な相談したい人もいると思うので、その辺りをしっかりフォローしていく体制づくりをしてもらった方が良いんじゃないかなと思いました。

会 長：私が30代、40代の方はどうですかという話をしたのも、その延長上の話です。今の20代から40代の人たちは、教え合いですよね。自分はどういうことを教えられます。でも、こっちは足りないから、別の人を呼んでもらったら、そっちには今度は受講生として行きますという形で、教え合うスタンスが

あります。だからそういう意味では、その部分に長けた人が特に若い方には多いし、彼らは、教え合う姿勢を持っていますから、上手く活用されたらどうですかという話なんです。具体的には、広報に長けた方、あるいはフェイスブックの活用で長けた方とか、様々おられると思います。

会 長：先ほどご指摘のあった職員さんのスキルアップについても、情報とか安全とか今後ますます必要になってくるような内容をやっていただければと思います。それらも、一ふらざのスタッフだけではなくて、NPO等で活動している人たちには必要なスキルだと思いますので、全体の講座を開きながら、職員さんも同時にスキルアップするのが良いのかなと思いました。

それから、様々な情報媒体を上手くお互いに活用しながら、情報ネットワークを充実させてくださいということもご指摘いただいたかなと思います。

更に、これは質問させてもらいませんでしたけれど、一番変わったのは、個人に頼るのではなくて、組織として動く体制づくりをやっているという事だだと思います。昨年度は、それをチャレンジする時期だったと思いますので、レベルや質はあえて問わなかったんですが、逆に今年度は、それをちゃんと動かす年だと思いますので、今度はそれがちゃんと動いているかどうかという、ある意味シビアな評価の仕方をやろうと思っています。今年度の評価は、職員の体制とか動き方に関しても効果を出していただく年になるのではないのかなと思いますので、そこは頑張ってくださいと思います。

あと、いかがでしょうか。せつかくの機会ですので、今年度の要望のような話でも結構です。

委 員：ずっと分からないことがあるんですが、自治会活動と一ふらざと、どう接点を結べば良いのかが分かりません。例えば、災害時、お歳を召していて、すぐに逃げられないから助けてほしいという仕組みがありますよね。あれを今、展開しつつあるんですが、市民の人と一番密接に繋がっているのは自治会なんですね。一ふらざで活動されている色んなボランティアのグループとは、直接繋がらない気がします。だから、どういうふうに関わり、どういうふう自治会の組織の中に展開してやれば良いのかが、よく見えません。

会 長：分かりやすく言えば、先ほど話が出た紅谷さんは、防災分野では非常に有名な人です。その紅谷さんの講座をやっていた時に、自治会の方々がどれだけ参加したかだと思えますね。防災も地域福祉もそうですが、知識的に持っておかないと出来ないことが、地域でも増えてきています。そういう時に、一ふらざから情報提供させてもらったり、あるいは講座を受けてみませんか。市民活動というのは、ある分野に特化して、そのスキルを磨いている人たちのグループだと思いますので、地域活動の中で、そういう方々とどう連携を図っていただくかということも、もっと必要だと思います。おそらく河内長野は、色んなスキルを持ったリタイア組の方がおられると思います。そういう方々が、防災の新しいグループ

を組んで、地域活動などと一緒に連携していただく仕組みを作っていただくとか、やるべきことはいっぱいあるとは思いますが。

委員：提案ですけど、今、くろまる塾で、地域まちづくりデビュー講座をやってくれています。ここに参加するメンバーが、その講座を修了した時、どこへ進んだら良いのか、どんなボランティアグループがあるのか、それも分かっていないと思うんです。例えば自治会で認知症対策を考えようと思っているとしたら、市の認知症サポーター養成講座を受けた人数を、地域まちづくりデビュー講座や自治会に情報提供してあげて、ネットワークを構築していくことが大事なかなと思います。まちづくり協議会も、具体的にどんな活動したら良いのかが、今の課題だと思います。活動を展開していく上で問題点が出てきた時は、こんな解決方法があるというような情報提供が必要だと思うんです。そういったキメの細かい事を、ちゃんと受け皿としてやっておくと、協働がスムーズに進むんじゃないかと思うんですけどね。

会長：たまたま私は、市民活動の応援もしていますし、地域活動の応援もしていますので、その辺りはおっしゃるとおりかと思うんですが、先程のアドバイザー講座は、ファシリテーターとかコーディネーターの講座の方が良いんじゃないですかという話をさせてもらいました。

例えば、先ほどの話ですと、地域にはもう既に地域福祉委員がおられます。ところが、福祉委員はあて職になっています。でも、福祉をやりたい人は、周りにいるんですよ。そういう人達が、ボランティアに入れるような組織になっているかと言えば、まだまだ地域側もなっていないんじゃないかなと思います。ですから、組織をしっかりと作って福祉委員を任命して、というのではなくて、もっと懐を広く開けていただいて、サポーター養成講座を受けた人は、どんどん来てちょうだいよ、という形で門戸をあけていただくことによって、どんどん入り込めると思うんですよね。

自治会運営のやり方を少し変えていただくきっかけになるような講座にさせていただくと、サポーター講座を受けた方は、どんどん地域に戻れると思うんですよね。そこは上手く連携していかないといけない話かなと思います。

それともう一つは、くろまる塾など生涯学習の方々も、もっと工夫をしていただかないといけないなと思っていて、これは長野以外でも同じですが、講座を受けると、やる気は高まるんですね。でも、自分たちのグループを作って動こうと思った時に、そこまでのスキルがまだ整っていないので動けなくなる。そうすると、また市役所に頼ってしまう。せっかく講座を受けたのに、活躍の場所が無いやないかという話になってしまうので、そこまでは養成講座の目的じゃ無いですよと、後は自分たちで動けるように頑張ってくださいということを最初から言っておかないといけないし、どうやって動いたら良いかの相談を受けるのは、るーぷらざだと思えますよね。じゃあ、こういうことから始めませんかという支援をしていただくという連携ができていけば良いのかなと思います。

摂津市では、新田さんという若手の方が、今年から摂津まるごと大学というのを始めました。これは、子育てママさんが一時的に退職又は休職をしていて、戻りたいんやけど戻れなくなっている。それを会社に戻すのではなくて、地域活動とか市民活動を始められるよう、起業を応援できるような講座を開きたいという形で今年度から始まったんですね。それは、講座はやるけれども、講座が終了した後の起業は、あなたたちが頑張ってもらわないといけない。そこまでは講座ではしませんということをお約束の元で動かしています。

ついでにお話しすると、大学でも同じで、結局は就活から先のことは、学生に頑張ってもらって話であって、紹介まではするけれど、そこから先は面倒見ませんというのは大学でもやっているの、生涯学習講座も同じ話なんですよ。申し訳ないけど、いつまでたっても市役所に頼って、お金が無いからお金を出してとか、私らだけでは回れへんから市役所の職員も手伝えとか、そういうことになってしまっているの、ここでスッキリ関係性も再構築しましょうかということですね。

委員：今の自治会の話には、ボランティアのマッチングシステムが、ちょうど合うんじゃないでしょうか。僕もスポーツクラブを運営していて、長野小学校の横でやっているんですけど、野作町自治会の方から、毎年、交通安全講習会を行う後に、子どもたちにダンスを踊って欲しいと依頼されました。突拍子も無いような案やなって思ったんですが、実は意外に高齢者の方たちがダンスを楽しみにしていて、講習の参加率が非常に上がったということで、2年程やらしてもらっていて、3年目の今年は、やって欲しいという声が、住民の方からあがっているという例もあるので、このマッチングシステムが使えるんじゃないのかなと感じました。

会長：おっしゃるとおりですね。野作町は、開いている自治会やから、色々オファーが出来るんやと思いますね。

委員：自治会と市民活動団体とのつながりについて、先ほども言われていましたが、自治会の役員というのは、1年か2年で代わってしまうので、私がやった時もこういう情報はなかったです。もし、自治会に出向いて、るーぷらざのマッチングをPRしていただくと、利用できるなあと思います。実際、私の自治会でも、全て自治会の中でやっていて、中でしか考えていない訳です。もっと広い域でできると分かれば、やり方を変えていけると思います。

委員：僕らの団体も自治会と広報活動を考えたことがあったんですが、2年に1度役員が代わった時に、次に伝達されていなかったら、もう連絡の取りようが無いんですよ。なかなか難しいってことで、途中で断念してしまったんですけど。

会長：そのために、まちづくり協議会があると認識していますが、なかなか難しく、連合自治会的な動きになっているので、もう少し門戸を開けた運営をしていただけたら嬉しいなと思っています。

委員：長野小学校区まちづくり会議には、野作町も長スポも入っていただいています。連合町会からは、毎年どなたか1名を副会長として入っていただいている、まちづくり会議で決まったことは、連合町会に持って帰っていただけるのと、私も毎月連合町会に顔を出させていただいています。そしたら、連合町会に入っていない自治会と連携を取らせていただくには、まちづくり会議から情報を提供させていただかないとだめで、何かやりたい時には、各団体さんに協力もしていただかないとだめということで、少しずつ連携を取っていています。

それから、教え合う世代という3、40代の方には、今年度から入っていただきました。そしたら、先生がおっしゃるように、これはここまで俺はできるけど、これは苦手やねんというふうに、話し合っていると思います。経験を積んでしまっている先輩方というのは、これは俺が得意やからってなってしまうんですよ。その集まりだったら、外れられた時に声をかけに行きにくい。

長野小学校区まちづくり会議は、まだこれからですが、河内長野は歴史も違いますし、地域の特徴も違いますので、各小学校区のまちづくりが一同に集まって、一緒に話し合っ、良いところ取りをお互いさせていただいたら、また、足りないところをお互いに手を貸し合うことが出来れば良いかなと思います。

私は、るーぷらざがこういうようなことに発展していけるようになってきたことを、改めて認識しました。最初は小さなグループをまとめていただくだけの役割とと思っていましたので。連携が取れるようするには、市も縦割りで、まだまだ横には繋がっていないので、私たちまちづくりの方が手を繋ぎあって、無理やり市を巻き込んで、ちょっと手を繋いでくださいよと言えるようになりたいなと思います。すごく良い言葉、教え合う世代というのを教えていただきましたので、それを広めていきたいなと思っています。

会長：三田市も同じように、小学校区内にまちづくり協議会を作り始めていて、昨年度に6つ出来上がりました。市の方が工夫して、お互い連絡が取れるように、まずは報告会をしようということで、昨年度の活動報告会をしました。

ここからが重要なんですが、私も参加させていただいて、3つずつ全くタイプが違うということに気づきました。それはどういうことかと言いますと、最初の3つは、協議会は自分で動かずに、地域でやりたい人に場所とか機会を提供しようということをされました。ひとつ典型的なところは、ゆりのき台というニュータウン地域の協議会は、事業提案制をとったんですね。お金は協議会が持っている、地域の中でやってみたいことを出してもらって、それが地域のためになると判断されたら、協議会の活動としてやってもらって、お金はその団体さんにお渡しするというようなやり方をとっているんですね。

一方で、次の3つのグループは、部会をしっかりと作り、部会長を会長が選任し、この部会長に責任を持って動かしてもらおうという、まるで会社組織のような運営の仕方を始めたんですね。組織をしっかりと動かそうという協議会と、皆ゆるやかにやっていこうよという協議会が、3対3に分かれたんですよ。私は前者の

方が絶対良いかなと思っっているんですけど、やっぱり組織型でしようと思われるところが半分ある。それは自治会の延長上でしか動けないので、ちょっとしんどいなというのもありまして、色んな面白い動かし方があるんだよということも、市役所の方と連携して、他の地域から見に来ていただいて、情報交換なんかもしていただけたらいいかなと思っっています。

委員：目からうろこって感じですよ。いかに自分が変わらなあかんかが分かりました。組織で動かそうとしてしまうんですよ。

会長：だから先ほどファシリテーターやコーディネーターの養成講座はどうですかとお話ししたんですけどね。

委員：先生の今の話ですと、前者のようなスタイルの協議会は、事業を遂行するのに大分時間がかかりそうですね。

会長：いわゆる意思統一を図るってことですよ。それは逆に考えると、なんで早くできたかという、一部の人が決めて、今年はこれで行くって言い切るんです。ですが、それが嫌やって人たちも出てきていて、私らには私らの思いがある。その思いをぶつけ合って共有するためには、やっぱり時間はかかりますが、それを乗り越えたら、凄い結束力の強い組織になるんですよ。どこに時間をかけるかの違いだけだと思います。

委員：つい、その組織を預かる、責任ある立場の者としては、次年度の総会の事業報告会で結果を出したいんですよ。こんな焦りがある訳ですよ。

会長：協議会を作るにあたって、今までとは違う動かし方をして欲しいですね。

委員：好きな人間が集まって、サッカーのBチームを作っしょうという大学のクラブ活動みたいのもんですね。

会長：でも、杉岡さんの団体は、元々からそういうことですよ。やりたいスポーツをしている人が集まっていますからね。そういう流れを地域組織にも作っしょう。市民活動と地域活動の良いところ取りをして、まわしていけるのが、まちづくり協議会の役割やと思うんですよ。だから、市民活動の人たちがどのような動き方をしているか、特に若い方達の動き方を見ていただいて、良いところ取りをしていただくと、地域活動の中にも、もっと入っころれるんじゃないですかね。

委員：自治会長をお願いしにいったら、99%嫌な顔をされますけど、3、40代の子育て世代の方々は、毎週日曜日、野球やサッカーのお付き合いをしていますもんね。あれぐらいのファイトで、うちも手伝っしょう。だから、その力を利用す

るということですね。

会 長：今までのやり方は、ある意味、役員からすれば使いやすいんですよ。自分らの言うことを聞いとけということで、結局、言うことを聞いてくれる人たちを集めていると、役員からすると、使い勝手の良い方が集まります。でも、勝手なことをする人が増えれば増えるほど、コントロールが効かなくなってしまう。だから、そういう方々を排除しようという構造が出来てしまうんです。市民活動と地域活動の良いところ取りをするために、接点と成りうるところが、る一ぷらざかなと思います。

今年度以降のヒントなど、色々なお話もいただきましたので、また市役所や佐川さんと一緒に、る一ぷらざの運営に生かしていただけたらと思います。